

# 教育と文化

No.131

令和5年3月



## Contents

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 2 巻頭言             | 10 かきぞめコンクール     |
| 4 三河の文化を訪ねて       | 12 みかわ彩発見絵画コンクール |
| 6 教育随想            | 14 作品展・表彰式       |
| 7 教室の窓辺           | 15 ネイチャーウォッチング   |
| 8 特色ある教育活動        | 16 文振だより         |
| 9 個人研究助成・教育図書出版助成 |                  |



公益財団法人愛知教育文化振興会副理事長 松平 貴圭

## 巻頭言

# アメリカの教育事情から考える

ずいぶん前になりますが、文部省の「平成10年度日米国民交流・若手教員の米国派遣団」の一員として、3か月間にわたり、オハイオ州を中心に、主要都市の教育事情を視察する機会を得ました。日本でここ数年話題になっている改革が、すでにアメリカで行われていたこともあり、25年経った今も考えさせられることがいくつかあります。

### 「三つの言い表せないアメリカの教育」

オハイオ州には600を超す学区があり、学区によって、また公立か私立かによって様々な学校の形態が見られました。

ホスト校のセイント・ポールスクールは、幼稚園から8年生（14歳）までの600人ほどの児童生徒が通い、学校の敷地内に教会がある私立学校でした。教員は転勤や研修の機会がなく、毎年同じ学年を担当し、20年以上も同じ教室を使う教員もいます。職員室がないので会議はありません。必要な情報交換は、関係する教職員が時間をとって行っています。

小学4年以上は、教科担任の教室へ児童生徒が移動して授業を行います。休み時間はなく、授業が終わるとすぐに次の教室へ移動します。給食はカフェテリアで学年ごとに食べ、掃除や部活動がなく、午後2時過ぎには、全ての児童生徒が下校します。週5日制で、夏休みは3ヶ月ほどあり、学校に行くのは1年の半分ほどです。しつけ教育や道徳教育、社会性の育成は、教会や家庭・地域が担い、すべてを抱え込んで悲鳴をあげている日本の学校の変革の必要性を感じました。

### 生活の基本となるボランティア活動

アメリカ社会では、大勢のボランティアの労働力、あるいは物資や資金の提供によって成り立つ活動が多く見られます。小学4年までの各教室には他学年の親が1日5時間ほど教室に滞在し、ノートへの添削や授業に必要な物を準備したり、個別指導をしたりなど、教員の補助を行っています。ランチルームにも、専属の職員に加え、ボランティアの保護者がいます。学校の資金づくりとしてのバザーは年に数回企画され、学校の手伝いをした親を呼んで、児童生徒がカードや花束を渡したり、表彰したりということが当たり前のように行われていました。「できることをやり、その結果がすばらしければ大いに賞賛する」という考え方が随所に現れています。

### 重視される課外活動

アメリカでは、日本よりもはるかに課外活動を重視しています。児童生徒は学校から帰宅すると、ボランティア活動やスポーツ・文化的なクラブ、趣味や追究学習の活動などに参加します。そうした活動は、人間関係や社交術を学びとることに役立つと同時に、身体の鍛錬や知的な発達を促すと親たちは信じています。

市の図書館では、園児からお年寄りまでが数台のパソコンに向かって調べ事をしたり、本の検索をしたりしていました。他の図書館や大学の図書館ともオンライン化され、借りたい本は数日で手に入ります。隣接する建物では、小さい子を対象に体操教室とバスケットボール教室が行われていました。日本の精錬されたカリキュラムや、子どもの習熟に対応する教育が評価されていました。アメリカの教育の実情を見聞きした私は、それまで余り感じることのなかった日本の学校の素晴らしさに気づかされました。特に三河には、確かな実績と伝統が築かれ、今日まで引き継がれてきた理念と組織があります。時流を敏感に察知しつつも、流行に流されず、あくまでも児童生徒に誠実で、地道な教育実践を継続していくことこそ、三河教育の本質と、思いを新たにしました。

愛知教育文化振興会では、校長会や三教研と手を携えながら、刊行物の出版や教育研究助成、各種コンクールやネイチャーウォッチング等、三河教育の本質を支える様々な事業に取り組んできました。また、時流に即した改善も進めています。QRコードを掲載し、タブレット端末やスマホを用いて情報を見たり聴いたりできるようにしました。教師用刊行物のPDF化やデジタル採点支援システムの運用にも着手しました。その一方で、児童生徒の実態に合った教材となるよう、現場の声を取り入れて修正を重ねています。

「ボランティア活動」や「課外活動」はアメリカに一日の長がありますが、我が国、三河地方には、それをカバーして余りある「授業」という文化があります。今後さらに、児童生徒や社会の変化を見据えて現状を改善するなど、複眼的な見方で「生きる力」の育成を実現できる、授業を中心に据えた教育環境づくりに努めることが肝要と考えます。

ました。ここでは、一般の指導者がコーチをしていました。YMCAでは、14種類ほどのスポーツやレクリエーションの講座が、月ごと、あるいは年間を通じて開かれています。文化的なコンクールも多くあります。親は子どもが学校から帰宅すると、活動への送り迎えに忙しいとのことでした。子どもに適すると思われる活動の情報を収集し、それを与え、子どもの長所を伸ばすことが親の重要な責任と考えられています。日替わりでいくつもの活動に参加させたり、1日に複数の活動に参加させたりする親が増え、子どもも親も忙しくなってきた傾向にあるようでした。

では、授業はどうでしょうか。

### 「広さ1マイル四方、深さ1インチ」

オハイオ州教育庁で耳にした言葉です。多くの学習内容に対応しようとするあまり、学習内容を深化させることができなくなったアメリカの教育をこのように表現していました。毎年、4、6、9、12年の各学年で到達度をはかる州統一テストが行われています。各学区における合格率は新聞に掲載されます。この結果によって、転職や転居があたり前の国民性から、人が集まり税金の高い豊かな町と税金が低く財政の苦しい町とでは、学校の施設・設備、教育内容や方法に差が生まれます。教員の給料も学校によって差があるため、豊かな学区には優秀な教員が集まることになり、それがさらに差を生むことに繋がります。地域格差の解消は、どこの州の政府でも重要な課題の一つとなっています。



厚さのある算数・数学の教科書

いくつかの学校を訪問し、授業を参観しました。州統一テストの合格率を上げる必要からか、学校の教具である事典並みの厚さの教科書には、単元の初めのページに覚えるべき公式のみが記され、続いてかなりの量の練習問題がついています。板書は少なく、「二問一答式」で、「スキル中心」の授業です。児童生徒は活発というより、静かに落ち着いて授業を受けることを求められている印象を受けました。教え合う、助け合うといった児童生徒同士の関わりはほとんどなく、イメージと異なるアメリカの学校の様子に戸惑いました。

### 継続的なりフォーム

当時のアメリカでも、今後の教育をどうすべきかを考え、常に継続してリフォームを行っているとのことでした。深く教えることを目指す時に、

くみよし三大夏まつりく

# みよしの夏を彩る風物詩

みよし市立中部小学校長 下田 久美子



三好池を彩る花火に願いを込めて(三好池まつり)



熱気あふれる 踊りの輪 (三好いいじゃんまつり)

2022年(令和4年)は、みよし三大夏まつりが3年ぶりに開催され、久しぶりに夏の勢いがみよし市に戻ってきました。

みよし市には、市内各地区で開催される秋の祭礼の他に、みよしの夏を彩る「みよし三大夏まつり」があります。8月、「三好池まつり」「三好いいじゃんまつり」「三好大提灯まつり」の順に盛大に開催され、長く市民に愛されて、市全体に活気をもたらします。1990年6月に三好町観光協会が発足してから市内外に広く紹介され、10万人を超える観客が集まる、みよしの顔とも言える観光イベントとなっています。

## 三好池まつり

(1) 三好池の大切さを忘れないために  
みよし市の中央には、愛知用水の調

整池として作られた三好池があります。現在は、市民の憩いの場(散歩、ジョギング、カヌー等)として、みよし市の生活を潤しています。

しかし、三好池ができるまでは、苦労が絶えませんでした。1959年(昭和34年)に曲り池を拡張した三好池が完成し、愛知用水が通水したことにより、待望の木曾の水がみよしの田畑を潤し、町民に喜びと感動を与えました。

1988年(昭和63年)三好池神社を建立し、翌年の8月5日、この木曾の水の恵みに感謝し郷土の産業発展を願って、山型の提灯で飾った提灯船を池に浮かべ、祈願船とともに奉る大御饗調進祭が行われました。これが「三好池まつり」の始まりです。

(2) みよしの地を悠久に潤す願いを  
込めて三好池神社へ

各地区や小中学校から多くの踊り手が集結し、観客共々道路に溢れます。夏の夕方から夜にかけて、オリジナルまつりソング「じゃんだらりん」(ポップス調)や「JUST ROLLIN」(ユーロビート系)に合わせ、盛大な踊りの輪が広がります。この日のために作った衣装、この日のために揃えた動きが観る者を魅了し、三好太鼓保存会が披露する大太鼓がまつりに華を添え、やがて踊り手と観客が一体となって夏の夜が盛り上がります。

毎年の夏休み、市内各地区で小中学生の有志が集い、練習や衣装作り等、地域の方と交流を重ねながら、絆を深めています。近年、他市町や外国から転居してきたたくさんの方々も打ち解け、練習の時から各地域で結束力が感じられる、みよしの夏の象徴的なまつりです。

これらのいいじゃん踊りは、みよし市内の小中学校の運動会や体育大会で披露されることが多くあります。また、みよしの友好都市である北海道土別市との小学生交流会や、アメリカ合衆国コンバス市との中学生交流会では、いいじゃん踊りを通してお互いの心の交流を深めています。

## 三好大提灯まつり

(1) 手作りの大提灯に込める思い  
みよし市のほぼ中央にある三好稲荷

三好池のほとりにある三好池神社は、三好池の御守護の祈願と三好池の水が悠久に枯れることのない守り神として、三好町土地改良区(現みよし土地改良区)と三好町利水委員会(現みよし市利水委員会)が核となり、町民、関係者の寄付を集めて建てられました。夏の祭礼として水霊祭を三好池まつりの前に開催し、ふるさとみよしを、悠久に潤す、木曾の水の恵みに感謝すると共に、現在のみよし市発展の礎となった愛知用水事業に敬意を表しています。

(3) 皆の心いつまでも灯り続ける  
感謝の光

みよし市の農業、工業、暮らしに必要な水の供給を安定させるために、多くの人の協力を得ながら造り上げた「三好池」に対する感謝の気持ちを込めて、三好池まつりが毎年8月の第一土曜日に開催されます。主催はみよし

閨の歴史は古く、三好町誌によると、江戸時代から続くまつりがあると記されています。

1927年(昭和2年)、三好稲荷閨が愛知の新10名所(中日新聞社の前身である新愛知新聞社主催)第2位に選出されたことを知った三好下在住の野々山弥蔵氏は、愛知の新名所第2位と自身の還暦を記念して、夏の大祭に、手作りの大提灯を奉納しました。これが、三好大提灯まつりの始まりです。

## (2) これからも伝承したい文化財

祭りの日は、高さ11メートルの大提灯(ギネス記録に載るぐらいの巨大な提灯で有名)が3体飾られ、夜空に浮かび上がるさまは圧巻です。

2017年(平成29年)に①「みよし市」の知名度の向上が図られ、市外へ情報発信することができる、②集客力を高めることにより、地域の商工や観光の活性化が図られる、③地域資源を再認識することで、地域の一体感を高めることができる、といった理由から「最大吊り提灯(Largest hanging lantern)」としてギネスに申請し、認定されました。

※現在はギネスの更新をしていないため、「ギネス世界一」と呼称することはできませんが、「世界最大級の大提灯」と呼称するのは問題ありません。

三好大提灯まつりでは、大提灯の他に、「棒の手」が郷土芸能として奉納されます。大提灯まつり実行委員会か



力強い演舞「棒の手」の披露 (三好大提灯まつり)

ら依頼された三好棒の手保存会の人たちが、二人一組となって舞う、迫力のある「棒の手」。自然に対する感謝や、人々の娯楽として、明治までは各地でたくさん行われていました。

毎年、この日のために地域の熟練者やまつりの担い手から手解きを受けながら、棒の手の練習を重ね、緊張感の中にも堂々とした演舞を披露する子どもたちがいます。郷土芸能を子どもたちに伝承していくことで、「ふるさとみよし」の思いを育んでいます。

みよし三大夏まつりを通して、みよし市が市民の合言葉となり、この三大夏まつりと共に、誰もが住みやすい、ずっと住み続けたいなる、みよし市を創っていく担い手となることを願います。

【資料・写真提供】みよし市産業課・広報情報課  
みよし市教育委員会、三好町誌



踊り手と観客が一体となる夏のひととき (三好いいじゃんまつり)

(2) 踊り手と観客が心一つに  
市役所の近くに位置する、三好稲荷閨周辺道路が歩行者専用道路となり、

盆踊りを一新し、住民が主体的に参加できるような盛り上がりのあるまつりにしたいと模索したところ、ディスコ調でかつ、道路で踊ることがブームになりかけていたことを受け、新旧住民の垣根をなくし、踊りによる活性化をねらった新しい形を実現させました。

1999年(平成11年)、皆が楽しめるイベントとして定着してきたことから「まつりとして位置づけたい」という声が上がると、「いいじゃん踊り」から「いいじゃんまつり」と呼び名が変わりました。



## どんな時代にでも

## 耐えうる根っこを育む

「根っこを育む自然塾」代表 谷 英樹



### Profile たに ひでき

昭和45年7月18日生  
三重県いなべ市出身。  
大学卒業後、建設会社の現場監督として20年間、身近な自然に人工物を造る。あるきっかけで子どもたちの遊び場がないことに気づき、2012年に「根っこを育む自然塾」を開塾。現在は、佐久島にて、ひと昔前の暮らしをベースに9歳までを対象に遊び尽くす自然体験活動を実施中。

「根っこを育む自然塾」に長年通う5、6年の子どもたちは、昨年の夏、無人島キャンプにチャレンジしました。弓切り式での火起こし、釣りで食料確保、持ち込んだ水の節約、トイレのない環境など、とても過酷な生活でしたが、子どもたちはやりたいことを楽しんでやっていました。

本塾では、「つっ」のつくうちは神の子」という考えから、一つ、二つ〜七つ、八つ、九つといった、9歳までを対象に、人間としての「根っこ」を育むことを目的として、ひと昔前の暮らしをベースに、自然の中で遊び尽くす活動を行っています。「自然が先生になる」と考え、私たち大人は見守ることに徹しています。

私は「子どもに無理強いさせない」を大切にしています。江戸時代の書物『田畑植物のたとえ』の中に、「畑や田んぼの植物は、水をあげていても日照りで枯れることはありませんが、道端の雑草は水をあげていないのに、青々としています。」という記述があります。田んぼの米や畑の野菜は、人が自分たちのために植えたもので、米や野菜にとっては無理を強いられているのかもしれませんが、反対に道端ではえる雑草は、自分でここで育つと

決めて生きています。困難にぶつかった時、無理

強いされたものは弱さが出ますが、自分で決めて育つものは、強さを出します。だから、田畑植物が日照りで枯れていても、雑草は青々としているのです。好きなことをしている時の困難は、それを達成するための過程となります。好きなことを思いっきりやり（遊び尽くして）、困難を楽しみにできるココロ（根っこ）を育んでほしいのです。

木の「根っこ」には、土から栄養や水などを取り込み、幹や枝、葉へ送ったり、支えたりする役割があります。その「根っこ」に栄養を与え続けられなくなると、根は自分で栄養を探さなくなり、伸びることをやめてしまいます。結果、根は育たず、その木は強風や雨ですぐに倒れてしまいます。人も同じではないかと考えます。今世の中は便利過ぎて、栄養過多の状態です。これでは、強いココロが育ちにくいと思うのです。実は、強い強風・雨どころではありません。台風なんて当たり前です。そんな時に困難をどう楽しみに変えて取り組めるか。どう考えて周りに適応しながらこなすのか。という倒れないココロが大切になります。それこそが人間の「根っこ」なの

です。

自然は一つとして同じものではなく、思うようにもいきませんが、自然の中では五感がよく働きます。薪でご飯を炊くなどの手間暇かけた、ひと昔前の暮らし体験を通して、生きるために必要なことにたくさん気づくでしょう。これらの生（活）きた活動や体験が、これからの予測不能と言われる社会に耐えうる人間の「根っこ」を育むと考えます。



教えることで、さらに上達します！



自分で釣った魚をさばいてみよう！

## 教室の窓辺

### 地域と手を携えて創り上げる

#### 「きずな单元」

西尾市立中畑小学校 加藤 恭子

本校では、令和元年から地域を舞台に「きずな单元」を展開しています。それは、校区の「人・もの・こと」を題材に、家庭や地域の協力を得て、問題解決的な学習を展開し、地域に働きかける活動を実践する学習单元です。

本年度、私は2年生生活科で「きずな单元」に取り組みました。2学期、「町のお気に入りの場所」を調べて発表し、地図に表しました。完成した地図を見て、お気に入りの場所が学校周辺の公園や神社に限られていることに気づいた子どもたちは、「すてきな場所は、もつとあるのではないか」という問題意識をもちました。

人に関する「すてき」を軸に学習を展開することで、有益な問題解決学習に発展させることができると構想した私は、八百屋、魚屋、寺院など、事前に協力を得られた7か所を子どもたちに紹介し、3回に分けて、「すてき」を見つける訪問を行いました。その中で、子どもたちが目を輝かせたのは、個人経営の八百屋でした。「野菜や肉や魚など、何でもある」「手作りの梅干しがある」など、「もの」に注目した「すてき」をたくさん

見つける中、「2人で働いていたけれど大変じゃないのかな」と、働いている「人」に着目した発言が出てきました。それを機に、子どもたちの発言は、八百屋で働く2人に焦点化され、「はたらく人のすてきを見つけよう」という学級課題を設定し、全員で再び八百屋に訪問しました。

店主さんへのインタビュー、手作りの梅干しの試食、値札シール貼りの体験を通して、「カエルの置物は、子どもを笑わせるために置いてある。子どもに優しいお店だね」「梅干しを3つも食べさせてくれたよ。優しいね」など、「人」に対する気づきを発表し合う子どもたちの姿がありました。10月に行われた研究発表会では、八百屋の店主を招き、授業を行いました。その終末、店主が学校給食の食材を調理室に届ける動画を見て、「ほかたちのために野菜を届けてくれている」と、自分たちとのつながりを感じ始めました。その後、子どもたちは個人課題を設定して、八百屋のような「すてき」な「人」がいるであろう場所へ訪問を重ね、自分たちと地域の店とのつながりを深く感じとっていききました。

11月、1年生と店主さんたちを招き、「町のすてき発表会」を行い、中畑の「すてき」を発信しました。

单元終了後、「調理室の近くで、八百屋さんと挨拶したよ」「友達と一緒に八百屋さんに行ったよ」と報告してくれた子がいます。「きずな单元」を通して、地域に愛着をもち、はたらきかけの子が育ってきていることを実感しました。



値札シールを貼る子どもたち

本校は、本年度、「自ら学び、ふるさと中畑に誇りと愛着をもつ子の育成」を主題に研究発表を行いました。何十年も前から続けられている町探検を中心にすえた学習单元を、子どもたちにとって価値の高い学びのある单元に再構築しました。

加藤教諭は2年担任、研究副主任として、研究をけん引しています。授業に真摯に取り組む、子どもたちと何度も町を歩き、そこにある「すてき」を自分との関わりでとらえ、町への愛着として昇華させました。

この子たちが大人になり、大好きなこの町のよさを、次の世代へとつなげていくことを楽しみにしています。

(校長 杉浦あゆみ)

# 特色ある教育活動

「郡市教育・研究助成」を生かした取組紹介

## 「学び続ける生徒の育成」

「共につくる深い学びのある

授業を通して」

豊川市立代田中学校長 立川 恵理

代田中学校は、豊川市の中心部にあります。生徒数は405人、「共につくる喜び」かしこく・豊かに・たくましく」の校訓のもと、教育活動を推進しています。

本校は、令和2年度に豊川市教育委員会の委嘱を受け、教科指導を中心に研究を進めてきました。ここでは、二つの部会の取り組みを紹介します。

### 一 深い学び部会

研究が始まり、何度となく話題として挙がったのは、「深い学び」とはどんな姿で現れるのか」ということでした。各教科で、「見方・考え方」から「深い学びの姿」を考えました。そして、部会では、教科という枠を超えて検討しました。専門外の教科について考えたことで、専門教科に対するアプローチの視点を増やす機会になりました。さらに、「深い学びの姿」とともに、「それに迫る手だて」を整理しました。

### 社会科

#### 【深い学びの姿】

資料による揺さぶりや仲間とのかかわり合いを通して、さまざまな社会的事象を多面的・多角的に考え、解決していこうとする姿

#### 【深い学びのための手だて】

- ・意見の比較ができる効果的な資料の提示をする。
- ・ウェビングを活用し、仲間と考えを広げる。
- ・自分の立場を明確にした話し合いをさせる。
- ・ワールドカフェ方式でいろいろな人と意見交流をさせる。
- ・単元を通した問いを考えさせたり、ウェビングで言葉をつなげさせたりした内容を使って、学習前後の自分の姿を比較しながら、ふり返りを書かせる。

授業案には、「本時の深い学びの姿」を「本時の目標」と併記するとともに、授業過程にそれが現れる場面や有効な手だてを記しました。そうすることで、生徒たちが活動する姿を具体的に想定して、授業に臨むことができるようになりました。

### 二 小中連携部会

小学校で身につけた「学習規律」や「ふり返り」などの学び方を継承したり、発展させたりして、授業の段差を少なくすることを目指しました。授業の終末に行う「ふり返り」は、小学校のポートフォリオを参考にワークシートを作成しました。「学習前と学習後の変容がわかるようにす

る」「ふり返りを書く」という共通理解のもと、教科の特性に応じて形式を工夫しました。それを一枚のシートにすることで生徒の変容が見やすくなり、生徒の評価だけでなく、次の授業づくりにも生かせるようになりました。

### 三 成果と課題

「深い学びの姿」を具現化することで、「どのような生徒を育てていくのか」というイメージが共有でき、3年間の学びの連続を意識した授業実践へとつながりました。また、教科を超えて授業を見合い、そこで得たことを各自の授業実践に生かせるようになりました。

小学校との系統を重視した学び方の工夫により、授業での生徒の戸惑いが軽減されました。また、「ふり返り」を工夫したことは、学習前後の自分を比較し、自己の成長を自覚できる生徒の育ちを促しました。最近では、仲間とのかかわりから、自分の課題や目標を見つけ、「次はこうしたい。こうなりたい」という思いをもつ生徒が現れてきました。生徒たちの自己実現への思いを授業に生かせるように、さらなる授業改善への思いを強くしています。



グループで意見交流をする生徒たち

## 令和4年度 「個人研究助成」

「審査を終えて」

この度、令和元年度から3年間、研究を推進された9名の先生方の論文審査が行われました。

昨今の厳しい教育環境下においても、三河教育の本質を外さない力作ばかりでした。ここでは、松平貴圭審査委員長の講評の概要とともに、優秀と選出された3名の先生方を紹介いたします。

### 講評

審査対象となった論文は、どれも、子ども達の実態からめざす子ども像が具体的に設定されていました。さらに、抽出児童・生徒に対する「願う姿」も具体的に述べられ、研究におけるねらい、そこに迫る仮説、子ども達の考えや思考に寄り添った手だてまでの論旨が一貫していました。コロナ禍において活動が制限される中でも、目の前の子ども達のためにできることを模索し、研究に真摯に取り組む先生方の熱意が伝わってきました。また、この3年間は、現行学習指導要領の移行期、全面实施の時期にあたり、その理念を具現化した内容からは、三河教育の実践の確かさが伝わってきました。

最優秀賞・優秀賞に輝いた先生方の、子ども達が生き生きと動き出すときや、思考の流れが変わるとき教師の手だてについてまとめた内容は秀逸で、多くの先生方の授業づくりに資するものばかりです。3名の論文はこれから3年間、三河教育会館の2階に展示されます。来館の際には是非、手にとってご覧ください。

### 研究成果論文審査結果

#### 最優秀賞（1名）

愛知教育大学附属特別支援学校 (前岡崎市立竜美丘小学校)



加藤 雅也  
他者との運動経験を通して、見方・考え方を働かせる体育学習を目指して

最優秀賞の栄に浴し、身に余る思いです。研究を支えてくださった先生方に感謝の意を申し上げます。

#### 優秀賞（2名）

知立市立知立小学校



来川 知裕  
豊かな想像力を持ち、思いの伝わる表現を探索する子の育成

多くの方の支えて3年間、充実した研究ができました。私自身も想像と表現を見直す研究になりました。



伊吹 拓実  
生活の中にある音や音楽に耳を傾け、仲間と関わりながら音楽表現を楽しむ子の育成

安城市立桜林小学校

子どもたちとともに楽しみながら研究を重ねることができました。貴重な機会をいただいたことに感謝しています。

## 令和4年度 教育図書出版助成

本法人では、教育文化の振興と子供たちの健やかな成長を願い、教育図書出版に助成するとともに、その内容を広報しています。

三河の小中学校教員及び、教員であった個人、これらの方々を代表とするグループが、学校・家庭・地域に関わる教育活動や研究をまとめた図書で、経費の多くを公費等の援助を受けずに出版したものを対象としています。

本年度は、審査会において1点の助成が決定されました。なお、令和5年度の応募要項は、本法人のホームページに掲載されます。

### 郷土研究誌「泉田の今昔」

発行 泉田郷土研究会

代表 山田 基

A4判 200頁 500円



本書は、身近な地域の歴史、地域の暮らしとその変化をまとめたものである。地域の方への情報提供だけでなく、社会科や総合的な学習の時間の地域学習に、少しでも役立つことができればと考えた。目次は左表のとおり。

- 第一章 日本史の中の泉田
- 第二章 公民館・市民館の変遷
- 第三章 泉田の神社と寺院
- 第四章 泉田の海
- 第五章 富士松南小学校の歩み
- 第六章 農業用水を手に入れる工夫
- 第七章 泉田地区の幹線道路の変遷

第一章では、今までに分かっていた泉田地区の歴史を時代順に資料を基に記述し、歴史の教科書の内容が、自分たちの地域では、実際にはどうだったのか分かるようにした。第六章では、明治用水が無い泉田地区では、昭和40年代になって愛知用水の水が引かれるまで、どのように農業用水を手に入れていたのかという疑問に対し、資料を基に答えを記述した。第七章では、学校の前の幹線道路や通学路はいつ開通したのか。橋はいつ架けられたのかという素朴な疑問に対し、資料から答えを導いた。これらは同時に、学校が今の場所にいつ建てられたのか、という答えにもなった。

各章の内容が関連し合っていて、地域学習の楽しさを実感し、素朴な疑問を大切にしながら学び続けることができる、きっかけとなる資料提供になればと願っている。

令和4年度

# かきぞめコンクール



「かきぞめ手本」を題材にした第12回かきぞめコンクールを実施したところ、三河地区から小学生の部1704点、中学生の部341点、計2045点の応募がありました。

書家・編集委員の先生方が審査し、各学年最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作7点、奨励賞20点が選ばれました。入賞者一覧をHPに掲載しています。ぜひご覧ください。



また、本年度は3年ぶりに「かきぞめコンクール」と「みかわ彩発見絵画コンクール」の作品展を2月3日(金)と4日(土)に、表彰式を2月5日(日)に行いました。じつと作品に見入る様子や、感嘆の声を上げる様子がありました。また、作品を背景に写真を撮る受賞者の姿もありました。本法人が刊行する「かきぞめ手本」には、書家の先生の毛筆動画が見られるQRコードを掲載しています(小3、小5、小6、中2、中3)。来年度は小4、中1にも掲載する予定です。また、小学1・2年用には「鉛筆の正しい持ち方」の動画をQRコードで掲載しました。書への関心が高まることを願っています。

## 講評

「かきぞめ手本」編集委員長

豊田市立則定小学校長 成瀬 美香

今年も多くの作品がコンクールに寄せられました。一つ一つの作品からは、紙と鉛筆、または筆が接するその1点に集中する子どもたちの息遣いまで伝わってきます。小学1、2年生の硬筆作品では、力強い筆圧で書かれたはねやはらいの見事さに、3年生以上の毛筆作品では、大胆な筆使いで書かれた整った字形と調和した全体のバランスに、中学生の行書作品では鮮やかな筆使いから生まれる点画の柔らかさとその流動美に、書を書く素晴らしさを感じました。

手で文字を書く機会が減りつつありますが、文字から伝わる温かさが変わることはありません。書字文化の担い手がこの三河の地で次々と生まれていることに大きな喜びを感じます。



表彰楯と副賞(ペーパーウエイト)

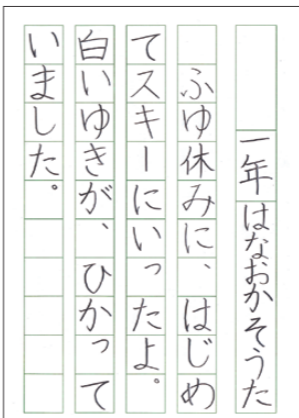
## 最優秀作品の紹介

本年度のかきぞめコンクールで、最優秀賞を受賞された9名のみなさんの作品を紹介します。

### 〔小学生の部〕

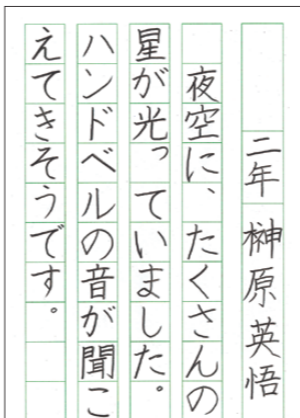
西尾・平坂小学校

一年 花岡 想太



西尾・平坂小学校

二年 榊原 英悟



## 令和4年度かきぞめコンクール入賞者(最優秀賞・優秀賞・佳作)一覧

	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年
最優秀賞	西尾・平坂小 花岡 想太	西尾・平坂小 榊原 英悟	豊田・中山小 檀浦 由芽	豊田・野見小 村瀬 結香	安城・桜井小 伊藤 絵天	豊田・駒場小 山田 晴	みよし・南中 坂井 来光	豊田・末野原中 竹花早耶香	豊田・前林中 山田 柊
優秀賞	西尾・中畑小 中村 日咲	豊田・青木小 廣野 菜々	岡崎・矢作北小 羽戸 陽咲	岡崎・三島小 判治 里紗	岡崎・井田小 近田小茉希	岡崎・美合小 市川 柚芽	豊田・美里中 内藤 雫月	豊田・高橋中 川合 紋寧	豊田・崇化館中 中村 栞
	西尾・吉田小 河野琥太郎	蒲郡・竹島小 白井 里依	豊田・中山小 伊藤 里紗	豊田・野見小 高島 彩加	刈谷・かりがね小 興梠 葵	豊田・野見小 村瀬 朱音	豊田・井郷中 杉淵 柊二	豊田・梅坪台中 小野 爽	豊田・末野原中 鷲野 眞歩
佳作	刈谷・小高原小 吉田 伊織	豊田・朝日小 堀 唯花	豊田・土橋小 鈴木 結菜	碧南・新川小 大村 允天	碧南・棚尾小 井上 晴貴	豊田・拳母小 牛田さやの	豊田・高橋中 柴田 蒼佑	豊田・朝日丘中 池田 桜菜	岡崎・美川中 江口 美優
	刈谷・日高小 黒田 澪里	豊田・寺部小 古井 柔花	豊田・高嶺小 近藤 真唯	刈谷・小垣江小 加藤 希子	豊田・中山小 伊藤 颯汰	豊田・元城小 岩瀬 ゆめ	豊田・高橋中 村瀬 敦哉	豊田・上郷中 大山沙久良	豊田・崇化館中 上田 笑瑚
	豊田・前山小 水口理紗子	豊田・高嶺小 柳澤 莉子	西尾・平坂小 安部佑愛乃	豊田・青木小 杉山 蒼波	豊田・寺部小 柴田 菜歩	豊田・梅坪小 西岡 菜音	豊田・上郷中 倉橋 杷七	豊田・上郷中 近藤 すす	豊田・朝日丘中 西尾 菜乃
	西尾・平坂小 松木 莉来	豊田・堤小 小野 理緒	西尾・一色東部小 豊田 優芽	豊田・朝日小 堀 美咲	豊田・若林東小 岩崎萌心慈	豊田・寺部小 石王 葵	豊田・高岡中 阿部みのり	安城・東山中 早瀬ひより	豊田・松平中 川上 優空
	西尾・矢田小 井田 琴葉	西尾・平坂小 小松 菜奈	みよし・中部小 尾藤 道彦	豊田・前山小 水口優莉子	安城・桜井小 磯谷 海瑠	安城・桜井小 高松 ゆり	豊田・浄水中 市川 穂香	安城・篠目中 中村 琉菜	豊田・美里中 村瀬 七海
みよし・黒笹小 丹羽 裕愛	西尾・室場小 伊藤 愛莉	蒲郡・蒲郡南部小 篠原 耕壽	豊田・大林小 渡辺 由真	安城・桜町小 江見つくし	西尾・平坂小 鳥居 礼夢	安城・東山中 坂口 蒼依	西尾・一色中 神谷 幸花	豊田・美里中 森田 胡桃	
蒲郡・竹島小 酒井 朋佳	西尾・一色西部小 杉江 澪	蒲郡・形原小 鈴木 湖己	安城・今池小 杉浦 絢音	幸田・荻谷小 可知 笑奈	みよし・三好丘小 葉師寺咲来	西尾・吉良中 平山 凜香	幸田・南部中 小野良有芽	みよし・三好丘中 坂中 志帆	



豊田・中山小学校  
三年 檀浦 由芽



豊田・野見小学校  
四年 村瀬 結香



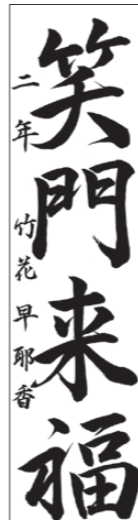
安城・桜井小学校  
五年 伊藤 絵天



豊田・駒場小学校  
六年 山田 晴



みよし・南中学校  
一年 坂井 来光



豊田・末野原中学校  
二年 竹花 早耶香



豊田・前林中学校  
三年 山田 柊

令和4年度  
みかわ彩発見  
絵画コンクール

平成30年度より始まりました「みかわ彩発見絵画コンクール」も今年で5年目を迎えました。本年度は、春・夏の部に1736点、秋・冬の部に1054点の応募がありました。応募にご協力いただきました皆さんにお礼を申し上げます。  
佳作・奨励賞を含めた入賞者一覧は、HPに掲載しています。



講評

三河教育研究会造形部会長  
西尾市立米津小学校長 丹羽 圭介

今年度は、春・夏の部、秋・冬の部合わせて2790点もの応募がありました。未だ新型コロナウイルス禍で様々な制約がある中、三河各地区の先生方が、子どもたちの感性を豊かに育てる造形教育に尽力されていることに深く敬意を表します。  
今年の応募作品は、制約のある中でも、子どもたちが制作に集中し、楽しみながら描いていると感ぜられる作品が数多くありました。子どもたちの世界が現れることに重きを置いた造形活動を、先生方が大切にされていることの表れです。本年度も発達段階に応じた、子どもらしい感性がよく表現されている作品を選出しました。

本コンクールは、三河の「くらし」「まつり」「ふるさと」をテーマに、人々の姿を通して、子どもたちの感性を磨くために開催されています。今後も、授業を通して磨かれた、表現力あふれる作品の応募を期待しています。

「学校賞」を3校に贈呈

「みかわ彩発見絵画コンクール」に積極的に取り組んでいる学校の中から、特にその取り組みが顕著な学校に対して、本法人から「学校賞」を贈呈しています。  
一昨年度より新たな基準(児童数500名以上の大規模校、児童数150名以下の小規模校、その中間の小規模校に分けて選出する)を設け、選出しています。  
本年度は次の3校に決定しました。  
《大規模校》豊田市立挙母小学校  
《中規模校》刈谷市立富士松北小学校  
《小規模校》新城市立鳳来寺小学校  
選ばれました学校の応募児童全員に、本法人から参加賞が贈られました。



みかわ彩発見絵画コンクール「学校賞」(豊田・挙母小)

最優秀賞入賞者及び作品 (秋・冬の部)



序曲「トンネルの先は海の風景」  
幸田・深溝小学校  
1年 三島 悠璃



おじいちゃんが植えたりっぱなみかん  
みよし・中部小学校  
3年 鈴木 芽依奈



さいこうでたのしいころもまつり  
豊田・挙母小学校  
2年 宇野 紡



豊橋鬼まつり  
豊橋・松葉小学校  
4年 近藤 叶椰



伊賀八幡宮隨身門 新年のごあいさつ  
岡崎・大門小学校  
5年 山下 凌空



今年こそは開催してほしい「うなごじ祭り」  
豊川・牛久保小学校  
6年 小林 柚菜

優秀賞入賞者 (秋・冬の部)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
豊田・浄水北小 神谷 謙心	岡崎・井田小 眞壁 明志	岡崎・小豆坂小 柴田 環奈	刈谷・双葉小 近藤 佳歩	豊田・挙母小 谷野 円香	岡崎・岡崎小 久田 奈歩
豊川・豊小 大藪 璃座	刈谷・東刈谷小 有馬陽菜乃	豊橋・前芝小 塩野 羽菜	田原・清田小 白谷 心美	豊田・青木小 坂川 真士	岡崎・井田小 永田 愛実

最優秀賞入賞者及び作品 (春・夏の部)



うみのなかで。  
幸田・坂崎小学校  
1年 村松 真智



プールでおよぐ  
蒲郡・竹島小学校  
2年 宮田 都羽



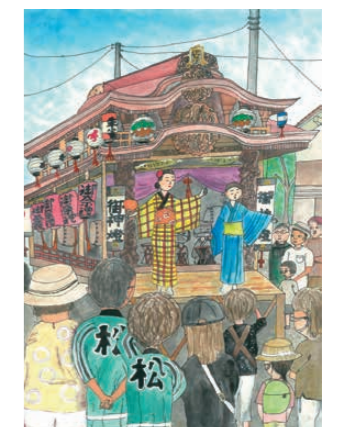
しゃぼん玉 V/S 水でっぼう  
田原・童浦小学校  
3年 小林 靖典



ひらひら泳ぐ黄柳野の鯉のぼり  
豊橋・吉田方小学校  
4年 小川 有宇



二川のおまつりでたいこをたたかっ  
かっこいいお父さん  
豊橋・二川南小学校  
6年 紅林 琉奈



能見神明宮大祭  
岡崎・梅園小学校  
5年 永見 晴

優秀賞入賞者 (春・夏の部)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
岡崎・根石小 柴田 朝陽	岡崎・井田小 勝峯 いくみ	岡崎・小豆坂小 増永 奨	知立・知立南小 山本 新太	安城・桜林小 小西 真矢	豊田・挙母小 津野七々帆
安城・安城北小 角谷 航希	岡崎・井田小 眞壁 明志	豊橋・向山小 松本 姫良里	田原・清田小 白谷 心美	豊橋・鷹丘小 石井 瑞輝	豊橋・鷹丘小 二橋 美心

# ネイチャーウォッチング

親子で楽しむ  
ネイチャーウォッチング



平成29年度より毎年開催してきました「ネイチャーウォッチング」ですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年間、完全実施ができませんでした。

しかし、本年度は予定した計画を全て実施することができました。A日程30組、B日程30組、合わせて60組の親子が、それぞれ3つの会場で講師の先生のお話を聞き、自然にふれる体験活動をしました。

豊橋市の伊古部海岸で開催した『化石を発掘しよう』(11/19実施)に参加した保護者の方からは、「化石発掘は子どもが一番楽しみにしており、前日からワクワクが止まらないようでした。実際に、いくつもの化石を発見でき、親も子も興奮気味でした。」と、子どもとともに味わった感動の声が寄せられました。岡崎市少年自然の家で開催した『星空ウォッチング』(11/27実施)に参加した子どもからは、「これまでも星はきれいだなと思っていましたが、望遠鏡で木星の衛星まで見えて、さらにきれいだなと思いました。」と、自然の美しさを再発見する喜びの声を聞くことができました。

こうした声が「豊かな感性と情操を育み、一層の人格の陶冶を図る」という本事業の価値を伝えてくれます。同時に、すべての回を実施できたことで、参加した子どもたちは、自然との感動的な出会いを3回味わい、自然とのかわり方など、大切なものを心に刻むことができたのではないかと考えます。来年度も再び感動を共有できることを願い、下のような計画を立てました。

令和5年度のネイチャーウォッチングの計画が決まりました。

少しでも多くの親子に参加していただけるよう、A・Bの2つの日程で実施します。

対象 三河地区に在住する小学生とその保護者

応募期間 令和5年4月3日(月)～4月28日(金)  
※詳しくは4月当初に配付するちらしをご覧ください。

## A日程 定員/30組

- A1 「めざせ 虫博士」** セミ、トンボ、チョウなどの昆虫採集体験  
日時：7月22日(土) 9:30～12:00  
場所：岡崎市少年自然の家(岡崎市須渚町)
- A2 「干潟の鳥ウォッチング」** シギ、チドリ、サギなどの野鳥観察体験  
日時：9月30日(土) 9:30～12:00  
場所：汐川干潟(田原市緑が浜)
- A3 「化石を発掘しよう」** 貝や広葉樹などの化石採集体験  
日時：11月18日(土) 10:00～12:00  
場所：豊橋市野外教育センター前海岸(豊橋市伊古部町)

## B日程 定員/30組

- B1 「川の生き物調べ」** 水生昆虫や川魚などの生き物調査体験  
日時：8月26日(土) 9:30～12:00  
場所：鳥川・岡崎市ホテル学校(岡崎市鳥川町)
- B2 「里山の生き物ウォッチング」** 秋の生物(虫、植物、鳥)の観察体験  
日時：10月21日(土) 9:30～12:00  
場所：東三河ふるさと公園(豊川市御油町)
- B3 「星空ウォッチング」** オリオン座、すばるなどの天体観測体験  
日時：12月16日(土) 17:30～19:30  
場所：岡崎市少年自然の家(岡崎市須渚町)

## Photo Gallery

「かきぞめコンクール」「みかわ彩発見絵画コンクール」

作品展(2月3日・4日) 表彰式(2月5日)



### 作品展こぼれ話

作品展初日、保護者や書道関係者だけでなく、祖父母の姿がありました。「三ヶ根駅から電車を乗り継いで東岡崎駅に着き、此处を目指しました。途中、道に迷いましたが、やっと着きました」「孫の作品が見たくて、碧南から来ました」「あやとりする自分の姿を鏡に映し、必死に描いていたのを覚えています」など、孫の作品を柔らかい眼差しで見つめ、制作にまつわるとっておきの話を教えてくださる姿に、大切にしたい家族や家庭のあり様を重ねました。



### 表彰式こぼれ話

表彰式を終えた家族の姿を写真に収めようと、玄関前でデジカメを構えました。即席カメラマンの拙い腕などお構いなく、暖かな日差しに誘われ、表彰式を終えた子供たちが嬉しそうに駆け出しました。我が子を横目に一人の母親が、「コロナ禍にありながら、表彰式を開催していただき、ありがとうございます。子供も感激していました」と伝えてくださいました。元気に走り回る子供たちのエンジンは、早春の陽気だけではなかったようです。







日高校長先生と後藤先生

## おじゃまします

豊田市立四郷小学校



デジタル採点支援システム実証研究校・豊田市立四郷小学校に、日高則行校長先生を訪ねました。小学校教科担任制を研究する同校は、3～6年理科（全8学級）を一人の教師が教えています。実証研究校に応募した主目的は、採点業務の軽減にあるようです。

校長先生は、本システムがその目的を達成している手応えに加え、次のように語られました。「問題ごとの正答数（率）の表示以外に、一つの画面にその問題の全解答が表示されるので、子どもの実態に基づいた正確な授業評価につなげることができます。まさに、“アナログは印象、デジタルは事実”です」。

途中から、理科専科であり、本システムを実際に運用している、後藤啓太先生も同席されました。「採点時間が短い分、テスト分析を基にした授業評価と授業改善に時間をかけられる」というコメントは、校長先生の言葉を裏付けるとともに、本システムが『指導と評価の一体化』の有効な手段になり得る可能性を示唆しています。さらに、4年・6年担任が国語科で本システムを使い始めたようです。こうした事実から後藤先生は、「将来は四郷小の全教師がデジタル採点支援システムを使い、その成果を四郷の子どもたちに還元したい」と熱っぽく語られました。

また、近隣の小中学校（6校）による校長会議の中でも、本システムの情報交換が四郷小学校を中心に行われているようです。実証研究校が核になり、情報が広がり共有されることは、それぞれの学校が導入に向けた第一歩を踏み出したことに他なりません。

今回の訪問で、特に印象的だったのは、日高校長先生と後藤先生の本システムと向き合う姿勢です。校長先生は「本システムを使ってみて、“こんなこともできるのだ”とわかってきた。色々な可能性への期待が私の中で膨らんでいる」、後藤先生は「“これもできる、あれもできる”という操作上の新たな発見がある」と言われました。前向きに取り組み、“楽しむ”姿勢が、システム推進の鍵なのだと実感しました。



採点が変わる



### 申請書提出・刊行物注文締切

- 個人研究助成（2年次・3年次）申請書提出／令和5年4月28日（金）  
（1年次）申請書提出／令和5年6月9日（金）
- 郡市教育研究・団体研究助成・学校教育ボランティアグループ助成  
申請書提出／令和5年5月8日（月）～19日（金）
- ◇ 第Ⅱ期刊行物注文締切／令和5年5月8日（月）～11日（木）



### 会議の予定

- 第1回文振郡市正副代表者会 4月14日（金）
- 第1回文振郡市事務担当者会 4月21日（金）
- 第1回編集委員長会 6月9日（金）

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

